

平成29年度 学校教育計画の評価

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(1)校務運営	<p>①各部・教科・学年間の情報の共有化。 職員会議や校務運営委員会などの協議をもとに、各種情報の共有化と共通理解が図られた。</p> <p>②教職員の意欲的な参画意識の醸成。 常に報告、連絡、相談の姿勢を忘れず、分掌間の調整と協力体制を保ちながら教育活動が行われた。</p>	<p>①目指す生徒像を明確にし、本校が抱える課題や問題点を解明にする。</p> <p>②分掌間の効果的な連携のあり方を目指す。</p>	<p>①本校の目指すべき方向性について共通理解を図り重点項目を策定する。</p> <p>②わかりやすい構造図を示しながら、教育活動への意欲的な取り組みを推進する。</p>
(2)教育課程	<p>①教育課程の編成 ・年間6回の教育課程委員会を実施し教育課程の編成や運用を協議した。 イ 新学習指導要領の完全実施を受け、各学年の問題点や見直すべき点を検討した。</p> <p>②科目選択のしおり(シラバス)の作成 ・1年次生の分野科目選択説明会の実施 ア 6月中旬 1学年生徒全員 イ 7/1(土) 保護者対象 出席保護者数64名。</p>	<p>・教育課程の内容の確認と検討を行う。</p> <p>・分野と科目選択が円滑に行われるように、「産業社会と人間」、分野科目説明会、面接等の充実を図る。 ・「主体的、対話的で深い学び」いわゆるA・Lの視点からの授業改善の充実をはかる。</p>	<p>・教育課程委員会を中心に各分野の目標に合った教育課程を検討する。 ・進路実現に向け、適切な分野科目選択ができるよう学年、教科、分野との積極的な連携を図る。 ・主体的に学習に取り組む場面を設定し、A・Lの視点からの学習、指導方法の改善をはかる。</p>
(3)教科指導 重点1	<p>①指導内容の充実と指導方法の改善について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②基礎学力の定着について ・日頃の学習時間が大変不足している。 ・「科目選択のしおり<シラバス>」を作成して、学習方法や指導計画を示し、身につけるべき能力を明確化したが、理解不十分な生徒がいる。</p>	<p>・指導内容の充実と指導方法の改善について<詳細はアクションプラン参照> ・どのようにして家庭学習習慣を定着させるか。 ・シラバスの見直しと効果的な活用方法。</p>	<p>・互見授業のさらなる充実を図る。 ・新学習指導要領の実施にあわせ、シラバスの内容をより分かりやすいものにする。 ・課題の提出率を高めるようにする。</p>
(4)生徒指導 重点2	<p>①遅刻指導について<詳細はアクションプラン参照> ・遅刻を繰り返す生徒には、段階に応じて特別指導を実施した。遅刻総数は増加傾向である。今冬の大雪の影響もあるが、保護者とともに改善策を考察する必要がある。</p> <p>②スマートフォンの指導について<詳細はアクションプラン参照> ・生徒の実態に即した講演会を開催し、ネット使用のルールやマナーについて考える機会を設定した。ネットパトロールでの指導が激減した。 ・校内での使用ルールを3学期から強化した。違反件数は増加しているが、違反を見逃さないことで増加した数字とも考えられる。生徒が操作している姿はかなり減った。</p>	<p>①遅刻指導について<詳細はアクションプラン参照> ・保護者と連携し継続した指導が必要。また、生徒会ともタイアップし全校一丸となって取り組む体制を作る。</p> <p>②ネットパトロール指導について<詳細はアクションプラン参照> ・保護者と協力し、ネット使用に関する規範意識も含めて、利用マナーの向上に取り組む。</p>	<p>・学年、生徒会等と連携し、遅刻防止月間や服装、マナーの改善を働きかける運動を企画し、全校的な取り組みとする。 ・遅刻を繰り返す等、改善されない生徒について、効果的な指導方法を模索し、個別指導を実施する。 ・PTA、生徒会と連携しながら本校のネットルール作りに取り組む。</p>
(5)特別活動 重点4	<p>①学校行事の充実と積極的な参加について<詳細はアクションプラン参照> ・校内行事に対しては、平均87%の生徒が主体的に参加できたと答えていた。また、30%を超える生徒が校外の行事に参加し、高い満足感を得ていた。</p> <p>②部活動やボランティアを通じた学校生活の充実について<詳細はアクションプラン参照> ・生徒は達成感や、他生徒等との交流に対して充足感を味わっている。大会入賞者は増加の傾向にある。</p>	<p>①学校行事の円滑な企画・運営と生徒の活躍の場について<詳細はアクションプラン参照> 生徒会の一員としての意識向上。</p> <p>②部活動を通じた学校生活の充実について<詳細はアクションプラン参照> 生徒の活動時間を保証し、成果が上がるようにする。</p>	<p>・行事に対して多くの生徒に活躍の場を与えられるよう1人ひと役を目指す。 ・執行部、ボランティア、各部活動の動きを活性化させ、学校内外に情報発信していく。 ・生徒、顧問、外部指導者等の連携を深め、活動の充実度を高める。</p>

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(6)進路指導 重点3	<p>①進路研修や進路ガイダンス、進路体験講座による進路意識ついてく詳細はアクションプラン参照</p> <p>②総合的な学習の時間や研修発表などから、多くの生徒は文章にまとめ発表し、内容を書き留めることができた。</p> <p>③3年就職希望者には、PTAの協力を得て模擬面接を実施した。進路体験講座や卒業生に聴く会などから得た情報を元に、各担任が個人面談を進め、保護者会での進路指導にも役立てた。</p>	<p>①自分の適性が分からず、いつまでも進路目標が定まらない生徒がまだいる。</p> <p>②多くの材料や書き留めたものから自分の言いたい文章にする。</p> <p>③面接対策、外部との連携 く詳細はアクションプラン参照 ・協力体制の確立</p>	<p>①見聞だけでは計り知れないことを、体験を通して自身を知る機会を増やす。</p> <p>②まずは身近な話題から物事を考え、文章にできる力を付けさせる。</p> <p>③担任や保護者への情報提供を逐次行い、保護者への進路講演会などを開催する。</p>
(7)保健美化	<p>①定期健康診断・各種検診を円滑に立案・実施した。また、生徒個々の既往症の対応も、職員の共通理解を図りながら対応することができた。</p> <p>②保健通信の発行、生徒個々に応じた対応ができた。また生徒保健委員会活動を推進した。</p> <p>③校舎内外の環境美化のために、特別清掃や美化週間を計画通り実施できた。</p>	<p>①定期健康診断後の受診率・治癒率を高める。</p> <p>②集団指導と個別指導の指導方法を工夫する。</p> <p>③全校生徒が、環境美化意識を高まるような方策を検討する。</p>	<p>①受診が必要な生徒への指導の徹底と、救急対応の職員研修を適時実施する。</p> <p>②保健活動をより推進し、生徒への指導効果を促進する。</p> <p>③美化活動をより推進し、全校生徒が美化意識を持つよう指導する。</p>
(8)図書指導	<p>①「朝の読書」は、学年の理解や担任の指導により、10分間は読書をするという良い雰囲気が出てきている。</p> <p>②図書館オリエンテーションや種々の読書指導により、図書館の利用者数が増加し、図書館で読書をする姿が昨年度より多く見られた。</p> <p>③行事への取り組みを通して、図書委員が自主的に取り組めるようになってきた。全員参加で文化活動発表会の企画を行い、「三杉No.57」を発行した。</p>	<p>①「朝の読書」に対する共通理解をより一層高め、またクラス文庫のあり方などについても検討を続ける。</p> <p>②全体への利用指導をするとともに、個人への指導も一層充実させる。</p> <p>③委員会活動の目標や目的、活動内容を明確にし、自主的な活動を促す。</p>	<p>①新着本情報や本の紹介などの広報活動を充実させることにより、読書活動の活性化を図る。</p> <p>②開かれた図書館を目指して、個々の関心に応じた読書指導の充実を図る。</p> <p>③図書委員会の生徒の自発的な活動の充実を目指し、適切な指導を行う。</p>
(9)情報	<p>①グループウェアの有効活用を行った。(掲示板・施設予約・ショートメール・ファイル管理等)学校全体としては安定したネットワーク管理を図り、トラブルの発生はなかった。個人情報の管理や執務用PCの利用に関する規定を遵守するよう周知し、情報の流出等の問題は生じなかった。</p> <p>②HPの有効活用を行った。各分掌・委員会・教科・学年から各種データ提供を得て、本校の現況の迅速な情報発信ができた。</p>	<p>①効果的なセキュリティ対策と適切なネットワーク管理により情報漏洩等やネットワーク障害のトラブルを防ぐ。</p> <p>②HPのCMSサイト化に伴い、迅速なHPの更新を心がける。より魅力的で効果的な情報発信の方法を研究する。</p>	<p>①フィルタリングやウイルスプロテクトにより、トラブルの未然防止に努め、障害時には迅速な対応に努める。生徒、教職員のPC・ネットワーク利用者の規範意識を高める。</p> <p>②HPの迅速な更新のために校内各所との連携を深める。HPの効果的運用方法を引き続き検討する。</p>
(10)教育相談	<p>①普段から生徒の動向に注意し、養護教諭・教育相談係と学年・学級担任等との連携をとることができた。また、臨床心理士と保健厚生部、学年とも連携を図ることができた。</p> <p>②相談室だよりを通して、生徒が問題解決能力を高められるように工夫した。</p>	<p>①悩みを持つ生徒に対して、関係職員と連携を図り、より早期対応できるようにする。</p> <p>②生徒にわかりやすい相談室だよりの作成。</p>	<p>①生徒個々に合った指導方法を、保護者と学校関係者間で連携して立案・実行する。</p> <p>②臨床心理士と連携を密にして解決の手だてを模索。</p>

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(11) 1 学年	<p>①「挨拶を交わす、服装を整える、時間を守る」を重点に指導してきた。始業式・終業式などの節目の行事では、服装・態度を整えることが出来るようになってきたが、日常の学校生活では、気持ちの緩んだ様子が、よく見受けられる。授業開始時・終了時の挨拶も入学時に比べるとおざなりになっている様子が見られる</p> <p>②自分の進路に真剣に向き合い、卒業後の自分をイメージし、進路実現のために積極的に努力する生徒がいる一方で、自らの進路について考えようとしていない生徒もおり、その温度差はかなり大きい。</p>	<p>①節目の行事で出来るようになってきたことを、普段の学校生活でも当然のこととして出来るようにするための取り組みが必要。生活態度に問題がある生徒には教員間での報告・連絡・相談を徹底し、保護者との連携を密にする。</p> <p>②生徒一人ひとりが進路目標を具体化し、目標を持って学習に取り組むことのできる環境を整える。</p>	<p>①体験的な学習に取り組む機会を多くし、主体的に行動する姿勢を身につけさせる。</p> <p>②問題を抱える保護者との連携では、その生徒の良い点を生かしながら改善が出来るよう、具体的な方策を話し合う。</p> <p>③「総合的な学習の時間」を中心に進路選択への意識を高め、進路目標を具体化できるよう個別面談の機会を多くとる。</p>
2 学年	<p>①県外進路研修やインターンシップなどの体験的な学習を通して、進路意識が高まった。また、進路決定の時期が近づくにつれ、より具体的に考え行動するようになってきた。</p> <p>②課題への取り組みは、進路意識の高まりとともに積極的になっている。また、模試の事前学習や週末課題への取り組み状況も向上している。しかし、模試終了後の事後学習への取り組みが不十分である。</p> <p>③部活動やボランティア活動に積極的に参加する生徒が多い。しかし、学校行事への取り組みは、やや積極性に欠ける。</p>	<p>①進路意識の高まりを、希望進路の実現につなげるための具体的な取り組みが必要。</p> <p>②模試実施後の、生徒との面談や教員間の情報共有、事後学習の充実が必要。</p> <p>③学校行事は、積極的に活動する一部の生徒だけが活躍し、他の生徒は見ているだけという場面が多い。</p>	<p>①生徒だけでなく、保護者にも進路情報が伝わるようにする。</p> <p>②進路指導部と学年が中心となり、生徒の進路希望や具体的な取り組みについて検討し、学校全体で支援する。</p> <p>③学校行事前のHRなどで事前準備に細かく取り組むことで参加意識を高め、積極性を養う。</p>
3 学年	<p>①進路目標の実現に向けて日々の学習を着実にやる生徒は多くなったが、進路が決まってしまうと、特に学習意欲が薄れる生徒も見られ将来を見据えた継続的な学習意識の向上には至らなかった。</p> <p>②遅刻・欠席が多い生徒には、将来の社会人としての立場で繰り返し指導を行ったが、あまり改善の見られない生徒が一部いた。</p> <p>③体育大会や部活動などでリーダー的立場を経験し、相互理解や問題解決への過程から、社会性を広く身につけることができた生徒が数多く見られた。</p>	/	/
(12) 地域との連携	<p>①「高校生さわやか運動」を夏・秋の2回実施し、上市駅頭で保護者16名の参加があった。生徒の平素の様子を知る機会となった。</p> <p>②「学園祭」ではPTAが模擬店を出店し、生徒と保護者、教職員、地域が交流できる場を演出した。学校行事を通じて、地域に日頃の活動内容を知らせるよい機会となった。</p>	<p>①PTA関連行事に保護者が参加しやすい環境作りを目指す。</p> <p>②PTA関連行事の企画に際して、保護者・生徒の要望や地域からの要請に応えられるように留意する。</p>	<p>①各行事の開催時期を決定する際に、PTA役員が中心となって広く会員の意見を聴く。</p> <p>②PTA役員からの働きかけや、広報活動を地道に積み上げていく。</p>